

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100260		
法人名	有限会社フローラ		
事業所名	グループホーム上砂川(ユニット楽)		
所在地	空知郡上砂川町下鶉南2条1丁目3-1		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JivvosvoCd=0177100260-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれ落ち着いた雰囲気の中で四季を感じられる上砂川唯一、2ユニットのグループホームです。各ユニットそれぞれ家族と共に考え問題解決に取り組み、気兼ねなく訪問、交流できる環境作りを目指しています。月に2回の百歳体操、不定期ですが町内でのまちなかカフェの参加など、地域の方との交流も深めています。また外出レクでは季節の花を見に行ったり、外でバーベキューをしたり、温泉に行ったりと季節感を感じて頂けるように努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、四季の移り変わりを満喫することができる山に囲まれ自然に恵まれた地にある。玄関を挟んで左右に各ユニットがあり、玄関を入ると正面にはガラス張りの事務所があり、事務所から両ユニットが見渡せ、利用者の動きにも目が届き安心・安全に繋がっている。居間、食堂は一体的で、天窗から陽が入り明るく、温・湿度なども適正に調整され、玄関に花を飾り、居間には利用者の貼り絵などの作品、季節の飾付け(ハロウィン飾り付け)をして家庭的な雰囲気となっている。職員は調理をしながらでも利用者の動きが全部見渡せるため、利用者は安心して過ごしている。利用者は、地域の祭りに参加したり、「カフェまちなか」や「ワンコインレストラン」に参加して地域住民と交流している。また、月2回、地域の人も参加して利用者と一緒に「100歳体操」を行って健康増進・地域交流の場となっている。事業所は、地域に根ざした視点で、地域の方々の声に耳を傾け連携を図り、支え合うように努めている。職員は経験も豊富で、何時も明るく、笑顔で、利用者一人ひとりを十分理解して日常の体調管理に気をつけて、可能な限り自立した生活ができるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を提示し、理念に沿った支援を心がけて実践しています。	「心も体もゆったりと楽しく安心して自分らしく暮らせるよう援助する」ことを職員一人一人が理解し実践している。また、地域に根差した取り組みを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	100歳体操、避難訓練などに参加して頂き交流を深めています。今年から地域で行っているまちなかカフェにも参加しています。	神社祭りに参加したり、「カフェまちなか」や「ワンコインレストラン」に参加している。また、月2回、地域の人も参加して利用者と一緒に「100歳体操」を行って健康増進・地域交流の場となっている。地域住民がホーム周辺の草刈を行ってくれたり、おやつ、布、おむつの差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の認知症の会に加盟し情報交換やアドバイスなどを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地域包括支援センター職員、認知症の会の会長、自治会の会長、利用者様のご家族にも参加して頂き、サービス、ケアの向上に活かしております。	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、認知症の会の会長、自治会長、家族代表などが参加し、運営状況や行事などを報告して意見や助言を得てサービス向上に活かしている。認知症の会の会長からは様々な意見等についてアドバイスを得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町福祉課、地域包括支援センターに相談し、その都度助言を頂いております。	町担当者に運営状況、利用者の状況等を報告し、運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、情報提供の他、指導、助言を受けている。町主催の勉強会に参加して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束が必要な利用者様はいませんが職員一同、身体拘束を行わない支援に取り組んでいます。	玄関に「身体拘束排除宣言」を掲示して、拘束となる行為とそれに伴う弊害は勉強会やミーティングで全職員理解して、拘束をしないで見守りで利用者の安全に配慮するケアの提供に取り組んでいる。玄関は安全上夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などで学ぶ機会を持ち、職員同士での情報交換を行い虐待防止に努めています。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、必要な利用者様はいませんが、内部研修などを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時には、十分な時間をとりご家族に説明しご理解頂いております。又、不安や疑問点にも配慮しその都度相談させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、来所時などにご意見、ご要望を聞きながら、ご家族とコミュニケーションをはかりより良い関係性を作る努力をしています。	日常の会話などから利用者の意向・要望の把握に努め、家族とは来訪時や運営推進会議参加時に利用者の様子を報告したりケアプラン更新時にアンケートを実施して意見や要望について聞いている。又、電話及び「わけわかめ」通信で利用者のホームの様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、モニタリング時以外でも、意見を言いやすい環境作りも配慮しています。	日常業務や会議で職員の意見やアイデア等の提案を聞くようにしており、管理者も個別に自由に話し合う場を持つよう努めている。代表者は毎月来訪して、職員の意見、要望を聞いている。施設内の案内表示や自動販売機の設置など代表者・管理者を交えて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々と話す時間を多く作り、意見、要望を聞く時間を作るように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員での情報交換や、外部研修、内部研修など学ぶ機会を増やし、知識、向上心を高めています。町主催での勉強会も積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村で主催している交流の場になるべく多く参加出来る様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に面談を行い、情報収集すると共に困っている事、不安なことを聞き、受け止め安心出来る関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問、来所して頂き、ご家族の不安、ご意見、ご要望をお聞きし解決できる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当の支援専門員、医師との連携を密にし、ご家族様、ご本人にとって一番必要な支援を提供できる様努めてまいります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片づけ、居室の掃除、シーツ交換などを出来る方には手伝ってもらい、日々の暮らしを一緒に過ごす事でお互いに支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来所して頂けるように取り組んでいます。ご意見、情報を共有し、共に同じ思いで支えていける様心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方等、馴染みの関係を出来る限り継続維持できる様努めてまいります。又、いつでも来所して頂けるよう取り組んでおります。	日々の会話や家族等から話を聴き、これまで築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。知人・友人の来訪があった場合は、居室でゆっくり話ができるように配慮している。家族と一緒に食事に行ったり、自宅や墓参りに行って、馴染みの場所などとの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、仲良く暮らせるように支援していますが、性格、認知症の度合により厳しいケースも見られます。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族様の相談に応じております。ほとんどが契約終了時に関係が絶ち切られてしまう事が多いです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動や行動などから思いや意向、希望の把握に努めています。	利用者の生活歴や日々のケアの中でのコミュニケーションから、思いや希望、意向を把握するように努めて職員で共有している。また、意向等を上手く伝えられない利用者に対しては、普段からの様子や状態を注意深く観察し、汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などご本人やご家族から情報を得ております。又、調査票も入手しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とコミュニケーションを図り、職員同士での情報交換を行い現状の把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に必要な関係者と話あって、現状に即した計画を作成しております。	利用者・家族の意向を反映させて、担当する職員の気づき等も参考にして、新入居者には1か月毎、それ以外の利用者には3か月ごとに担当者会議、ケアマネ会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成し、家族に説明して同意印を得ている。状況に変化があればその都度現状にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録を作成し介護計画の見直しに活かしています。又、職員間での情報を共有しケアの向上にも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて、柔軟な対応が出来る様に努めていますが、多機能化した対応は難しい場合もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防職員が参加し避難訓練を行ったり、町内会、認知症の会などと地域交流しながら支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様に十分な説明をしご理解を頂き当ホーム往診主治医に変更される方が多いです。必要に応じて他院に通院を支援しています。	入居時に、利用者や家族からこれまでの受診状況を確認し、利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。月2回は協力医の往診がある。	

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師はいませんが、往診時に看護師が訪問に来るため相談や必要な処置ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の医療機関、総合病院の地域医療連携室、認知症患者センター、市町村との連携をとって対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、職員と十分に話し合い、本人様にとって一番良い方法を考える様努めています。	重度化と看取りに関する指針が策定されており、入居時に利用者、家族に説明し確認を得ている。重度化した場合は、利用者、家族、主治医と十分話し合い、利用者、家族の希望に沿える様支援することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員主催の普通救命講習会を開催して実践力を身につける様に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っています。通報訓練や地域の方にも入って頂き、緊急連絡網にも町内会の方に入って頂いています。	年2回、消防署や地域住民も参加して避難訓練(夜間想定)を行っている。ポータブルストーブを備蓄しているが水、食料が備蓄されていない。	平成30年9月6日の北海道胆振東部地震では大規模な停電になりました。大規模な災害が発生した場合には事業所への救援活動が実施できない可能性があります。停電・断水時の場合にも事業所において最低3日間は生活が維持できるように水、食料、防災機材等を備蓄することが求められます。(社会福祉施設等における非常災害対策計画策定の手引、平成29年8月北海道保健福祉部通知)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定を尊重しながら、指示、命令口調にならない様に、声かけを十分配慮しているつもりですが、残念ながらなってしまふ事があります。	内部研修を行って言葉かけに気をつけ、同じ目線に立ちプライドを損ねないケアを心がけている。声掛けでは名字で行うよう尊厳を考えて個別対応を行っている。また、個人情報は書庫に保管し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定出来る場面をなるべく多く取り入れる様、働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人の希望を重視していますが、完全には個別支援が出来ていないのが現状です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感、季節感を心がけ支援していますが、ご本人の拒否により難しい場合があります。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、片付けなどに参加して頂いております。外での食事や、職員が同じテーブルで食事をとりコミュニケーションを図っています。	献立は利用者の希望を聞いて職員が作り、調理している。利用者は能力に応じ皮むき、片付け等を行っている。サンマ、ぶどう、柿など季節に合わせた献立や行事食、外食を取り入れ、職員と一緒に食卓を囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形、量、味付けなどを工夫しています。一人一人の食事量、形態などを職員で話し合い、必要に応じて主治医に相談し指示を頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ誘導を行い緑茶ウガイを行っております。又、歯科医からの口腔ケア指導を行って頂き実践しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し、パターン化した排泄支援を行っています。	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、表情や態度に気をつけながら適時の声かけなどで誘導し排泄の自立に努めている。紙パンツ・パットを利用し、オムツ利用者は0である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が豊富な食材を使用した献立や乳製品、水分量などを工夫しています。自然排便が難しい方も居る為個別に主治医に相談し下剤を使用している人もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間対応は現状の人数配置では難しいですが、日中に関しては、個々にそった入浴支援を出来る限り行っています。	週2~3回の入浴を基本に、利用者の体調を確認しながら希望する時間帯に実施している。入浴を好まない利用者の対応については、時間をずらしたりして支援に努めている。季節のゆず湯など、香りを楽しむ支援を行い、入浴が楽しくなる様心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事、オヤツ、体操時以外では、居室や居間で好きな様に過ごして頂いています。お昼寝をしている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤ファイルを作り、薬剤情報を整理し職員がいつでも確認出来る様にしています。薬の変更時でも申し送りノートに書き情報共有を徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活感、趣味などを把握し出来る事、出来る事を見つめるように努めています。		

グループホーム上砂川(ユニット楽)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望にそっての外出はなかなか行えないのですが、外出出来る機会を増やす支援を行っています。また家族と外泊や外出を楽しむ利用者様もいます。	日常的に散歩したり、前庭でバーベキューをしたり、家族と一緒に日帰り温泉入浴やひまわり・菜の花見学、バラ見学、ランフェスタ等にも出掛けて利用者の気分転換の工夫をしている。また、家族との外出・外食を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にその都度対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節感に合ったアイテムなどを設置し、温度調整にも配慮しています。	居間兼食堂を中心として周りに利用者の居室があり、職員が見守りやすくなっている。また、事務所からは2ユニットが同時に見守れるようになっている。玄関には花を飾り、居間には利用者の貼り絵、もみじの手形などの作品、季節の飾付け(ハロウインの飾り付け)をして家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設置し玄関フロアにはベンチを置き気の合った利用者同士が、日向ぼっこやソファでの会話を楽しんで頂けるように思い設置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に説明し、出来るだけ使いなれた家具、小物など持参して使用して頂いています。	クローゼットが備え付けられ、使い慣れたテレビ、タンスなどの家具、仏壇を持ち込み、家族の写真や自作の手工芸品を多く飾り付け、その人らしく居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置しホーム内を完全バリアフリーにしております。		